武蔵野市民文化会館休館中の公演事業

（2016. 4 ～ 2017. 4 の事業展開）

公益財団法人　武蔵野文化事業団
常務理事　平 岡 正 之

休館中の公演準備の始まり

平成26年度　改修工事の基本設計に着手

休館期間は平成28年4月から約1年間が確定

同時に、休館中の公演事業について具体的に対応を開始

ポイントは顧客離れを防ぐこと

→友の会の会員期限を1年間延長(申込時より2年間とする）

→他施設で公演事業を実施(当初目標は例年の半数）

この時点では、指定管理を受けている他施設を中心に、大学の講堂等を借りての公演ができないかを考えていた。

武蔵野文化事業団が指定管理を受けている他施設（ホール）

武蔵野スイングホール：武蔵境駅前に立地 180席
今までもジャズ公演等、年間20公演を実施（27年度27公演）

武蔵野公会堂：吉祥寺に立地 350席
古い施設で音響に課題あり（27年度 落語４公演）

吉祥寺シアター：吉祥寺に立地する小劇場 230席
音楽公演の実績はほとんどなし（27年度 音楽公演なし）

武蔵野芸能劇場：三鷹駅前に立地 150席
和ものを中心とした小劇場。小演劇、伝統芸能系の公演実績あり
（27年度 落語４公演）

大学での公演が実現するまで　①

大学での公演を考えた理由

〇休館が決まった時点から、おぼろげに大学を使わせてもらえないかと考えていた

〇武蔵野市内・近隣の大学と武蔵野市との強いつながりが背景としてあった

大学を使用する際のポイントとしたこと

・顧客のアクセス　武蔵野市民文化会館への経路の延長線を外れない

・音楽を鑑賞できる座席構成（椅子の前に机のある教室は不可）

・音響（クラシックが楽しめる音響の部屋であること）

平成26年4月～7月　この条件をもとに、可能性のあるところをリサーチ

平成26年7月　成蹊大学に正式に打診する

大学での公演が実現するまで　②

26年8月　現地視察

必要な条件を実際見て確認したが、意外と適した施設は少なく選定は難航

現地を見て、感じたこと

- 大きな部屋は机が作り付けで机を動かせる部屋が少ない
- 音が響くような部屋がなく、音響の良い部屋がない
- 舞台面(教壇)は、幅はあっても奥行きがなく、演奏家が上がれる面が狭い

その中で選んだ会場が、成蹊大学本館の大講堂

大学と詳細を協議して

26年11月　正式に依頼文書を提出

大学での公演が実現するまで　③

場所も決まり、大学の了解も得て、アーチストも決まり、公演日を平成27年12月20日と決めて、順調にいくように見えてからも、実は苦難は続く

消防法との関係で消防署に「防火対象物一時使用届出書」の提出が必要

- ○大学では大講堂を不特定多数を対象とした興行施設としての届出は出していない
- ○課題は、避難シュミレーションの作成。
- ○専門家に委託しないと作成できない、委託を打診するも、引き受け手がない。

事業担当の職員が「防火安全技術講習」を受講。届出書作成のノウハウを習得
成蹊大の避難シュミレーションもつくり「防火対象物一時使用届出書」を提出

大学で公演する上での留意点　①

公演実現までは序章にすぎなった

チケット販売と入場の課題

固定座席ではないため、指定席販売が困難　　自由席で約520席を販売

開場前に長蛇の列がロビーもない大学の廊下から外に延々と続く

2回目以降、「整理番号付き自由席チケット」の販売と「イベント会社への入場整理委託」

チケットもぎりの課題

大学の教室は、廊下から直接複数の入り口から入りやすいようにできている

当然ホワイエもなく、入場後の居場所は座席か教室内の空間。大講堂も同じ条件

階段前の扉前でもぎり、他の扉は人を立てて入場を規制（出場は可とする）

大学で公演する上での留意点　②

空調の課題

教室・講堂内の空調は、壁際・窓際に吹出口があり、空調の音が大きく響く

公演前に空調を強く効かせ、公演中は空調を止める

500人が入ると、夏はあっという間に蒸し風呂に、やむなく空調を入れる

気候のいい時期以外は難しい施設だったが、気づいた時には遅かった

トイレの課題

ホールに比べると、大学のトイレは、圧倒的に少ない。

休憩時間を長めに設定。大学の好意で別棟のトイレも一部使用させてもらう

大学は、基本的に設備の作りが違っていた

大学で公演する上での留意点　③

使用可能な時期とその確定時期

大学施設は、授業に影響のない範囲での使用に限られる

使用可能な日が決まるのは、翌年度のカリキュラムが確定する2月以降

使用可能な時期が、夏休みと年度後半の土日にならざるを得ない

改めて、ホールにはいろいろな機能が備わっていることを実感

一定の場所があれば何とかなるという甘い考えを反省

それでも、劇場・ホール運営のノウハウを持っていれば、やってやれないことはない

それには、**大学の多大な協力と臨機応変の対応があった。**この点は**非常に感謝したい**

また、お客さんは、異空間での音楽鑑賞を楽しんでくれた面が感じられ、それもにも助けられた

他の市・区のホールでの主催公演

自前の他施設と大学での公演だけでは足りないことが分かってくる

課題としては、交響楽等の大きな公演を打てないという点
その中で浮上してきたのが、他市のホールを借りて主催公演を行えないかという案

平成26年 9月～11月	三鷹市芸術文化センター：副市長間で依頼後、担当間で検討を開始 小金井市宮地楽器ホール：指定管理者及び市担当部署と協議開始 杉並公会堂：指定管理者と協議開始

他の市・区のホールでの公演での留意した事項

- そのホールでの主催公演との競合を避ける
- チケットの価格設定が見合う公演を選定する
- 自前の他施設では実施できない公演を行う

他の市・区のホールで行う上での課題と利点　①

大学に比べると施設・設備は雲泥の差
　設備が整っているため、施設使用について気をつかう面はほとんどない
　ただし、自館のような自由な使い勝手とはいかないので、万全な準備は必要

違う場所への顧客の抵抗感　　知らないところは遠く感じる

中央線で一駅でも西に行くと抵抗感がある。

小金井市：三鷹から3駅（10分）先の駅　ただし、駅前なので三鷹駅から
　　徒歩13分の武蔵野市民文化会館へのアクセス時間はほぼ同じ

三鷹市：三鷹駅から徒歩15分　同じ下車駅、歩く時間もほぼ同じ

この2館は、当初、遠いとの意見が多かった。公演後は小金井は駅から近く便利との評価に

杉並公会堂：三鷹から3駅（10分）手前の駅

遠いとの意見はほとんどなかった。駅からの道が分かりにくいとの問い合わせあり

他の市・区のホールで行う上での課題と利点　②

連携により、近隣ホールとの担当レベルでの情報交換が定期的に行えた

他館の対応の中に、参考になる事例がいろいろあることに気づかされた

特に、**施設打合せは各館ごとに違い、自館の内容と比べて参考になる事例が多く勉強になった**

小金井市宮地楽器ホールとのチケット販売の相互協力

相互の主催チケットを、それぞれの友の会会員に販売

利点として、販売対象が増え、チケット売れ行きに寄与

普段とは違うバリエーションの公演を顧客に提供できた

気を使ったのは、発売日をできるだけそろえることと、お互いにいい席を提供できるような、相互の座席割振り

休館中（平成28年度）の主催・共催公演実績

文化事業団指定管理施設での公演

スイングホール　60公演
武蔵野公会堂　5公演
芸能劇場　8公演
吉祥寺シアター　9公演
松露庵（落語・茶会）　14事業
ワークショップ、アウトリーチ等　23事業

他市区のホール・大学での公演（18公演）

三鷹市芸術文化センター　4公演
小金井市宮地楽器ホール　8公演
杉並公会堂　1公演
成蹊大学本館大講堂　5公演

その他

市内各コミュニティセンター　4公演

合計　141事業

結果的に音楽公演は前年の約75%にあたる　100公演を実施（27年度134公演）
ワークショップ、アウトリーチを加えると141事業を実施（前年151事業）

休館中もこれだけの事業を行えた理由は？

休館中も公演を行う前提で、早めに動いたこと

　休館決定とほぼ同時（2年前）に具体的に動き始めた

公演の継続と顧客離れを防ぐという視点で実施内容を精査したこと

決めたことはあまり躊躇せずに突き進んだこと（あとで苦労した面もあったが）

公演実施を依頼した各市・区のホール、大学から全面的な協力が得られたこと

舞台業者、レセプショニスト・イベント運営会社等、関係事業者の協力が得られたこと

休館中の公演実施にあたり、ご協力いただいた多くの方々に感謝申しあげ　事例報告を終わります

ご清聴ありがとうございました